

令和4年度 授業改善推進プラン 高学年

	令和3年度授業改善プランの検証と調査結果の分析 (○はおおむねできていること、△は課題があること)	授業改善策 (○よいところを伸ばすための方策、△課題を解決するための方策)
国語	<p>○話し手の目的や伝えたいことの内容を捉えて聞き取ることや、立場や役割に応じて話すことはおおむねできている。</p> <p>○物語では登場人物の気持ちや様子を読み取る力は5年、6年ともに7ポイント以上目標値を上回っている。</p> <p>△文章を要約したり、自分の考えやその理由を明確にしたりしながら書く力に課題がある。</p>	<p>○話し合いの学習では、相手や目的に応じた話し方を指導するとともに、相手の意図や話題の中心を捉えて話を聞くことを指導することで、発言内容と目的や意図を関連付けて考えることができるようにする。</p> <p>○叙述をもとに考えをまとめる学習を引き続き取り入れる。</p> <p>△文章構成を丁寧に指導して、文章中の要点を捉えられるようにする。また、自分の考えを文章で表す機会を多く設定し、書く経験を多く積ませる。</p>
社会	<p>○地図の読み取りはおおむねできている。5年「方位の理解・都道府県の位置」6年「日本周辺の海流」は正答率が他の項目よりも高かった。</p> <p>△内容によって定着の差が大きい。5年「ごみしゅりと利用、都道府県の様子」6年「自然環境と国民生活」の項目は正答率が低い。</p> <p>△資料に着目して読み取り、表現する力に課題がある。</p>	<p>○引き続き学習の中で地図を使って位置を確認するときに、方位を用いて位置関係を理解させたり、海流や川の名前などを繰り返し定着させたりする。</p> <p>△理解度が低い単元について復習を行い、繰り返しの指導の中で定着を図る。</p> <p>△一つ一つの資料を丁寧に読む方法を伝えていくとともに、「読み取ったことから考えたこと」を話し合う場を設定したり、2つ以上の資料を比較して、比べて考える活動を設定したりして、資料を読む力を高める。</p>
算数	<p>○面積、角の大きさ、図形の特徴など図形領域に関してよく理解していて、特に多角形の性質の正答率は目標値より10ポイント程度高い。</p> <p>△小数の四則計算は目標値より9ポイント以上下回っている。</p> <p>△折れ線グラフを表したり、与えられたデータから割合を求めたりする問題は目標値より7ポイント以上下回っている。</p>	<p>○具体物やICTを活用し、図形の特徴をとらえることができるようにする。</p> <p>△タブレットドリルの中の「たしかめプリント」や「フォローアッププリント」「ドリル」などを活用しながら反復練習を行い、基礎を定着させるとともに理解を深める。</p> <p>△データやグラフを読むときに「資料読み取りのポイント」を毎回確認するとともに、他教科においてもデータやグラフを読み取る機会を多く設定する。</p> <p>△考えを交流する場を設定し、根拠をもって考え、それを基に説明したり考えを深めたりすることができるようにする。</p>
理科	<p>○「生命・エネルギー」領域は目標値より7ポイント以上高く、比較的良くできている。特に動植物、ふりこ、電磁石などの分野の内容理解が図れている。</p> <p>○実物を用いて確かめた内容について、正しく理解している傾向がある。</p> <p>△「地球」領域は目標値より7ポイント以上下回っている分野が多い。</p> <p>△実験や観察困難な内容に関わる知識を習得したり、推測し考察したりすることが難しい。</p>	<p>○予想や仮説・実験方法の検討・実験・結果・考察の流れを意識して指導を続けることにより、科学的思考を高め、知識がより定着するようにする。</p> <p>○可能な限り、実物を用いて確かめるようにする。</p> <p>△実験や観察が困難な内容は調べ学習を充実させたり、児童同士の意見交換を深い学びにつなげたりする。</p> <p>△テスト以外にも練習問題に取り組んで問題の解き方にも対応できる力を育てる。</p>
外国語	<p>○英語で聞き取った内容(色、身の回りの物、動作など)について、すべての項目において目標値を上回っている。また「会話全体の理解(聞く)」の内容でも正答率が高い。</p> <p>○英語で書かれた内容(果物、施設など)についてすべての項目において目標値を上回っている。</p> <p>△聞き取った内容をつなげたり、聞き取れた単語から判断して内容を推測したりすること(天気と持ち物、道案内)にやや課題がある。</p> <p>△アルファベット(大文字・小文字)の読み書きに課題がある。</p>	<p>○ALTの発音を聞いたり、ALTの言ったことを繰り返して言ったりする活動を毎時間取り入れることで、英単語や英文を正しく聞き取ったり理解したりできるようにしていく。</p> <p>○ピクチャーカードを用いたチャンツや絵カードを使ったカルタなど、既習の単語を使った活動を授業の最初に反復して行うことで確実に定着できるようにする。</p> <p>△活動の中でリスニングの時間を十分に確保することで、短文だけでなく、長文についても徐々に聞き慣れることができるようにする。</p> <p>△英語を自分で書いたり読んだりする経験が少ない。新出の英単語やターゲットセンテンスを使って短文を書く活動を積極的に取り入れ、英語を書いたり読んだりすることに慣れていけるようにする。また、ターゲットセンテンスなどは視覚的に理解できるように、積極的に提示していく。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">体 育</p>	<p>○1時間のめあてを全体で共有し、学習活動を見通して児童が主体的に課題に取り組むことができる。</p> <p>○チーム練習での互いの教え合いにより、ボール操作の技能が向上した。</p> <p>△器械運動の技能に関しては、互いに見合うことはできているものの、技のポイントを相手に伝えることや、自分で練習方法を考えたり、練習の場を選んだりすることには課題がある。</p> <p>△新型コロナウイルス感染症の影響で、持久力や敏捷性など、全体的な体力の低下傾向がある。</p>	<p>○Chromebookを活用した学習カードを積極的に取り入れ、めあてや技能のポイントを明確にすることで児童が主体的に運動に取り組む、さらに思考力が高まるようにする。</p> <p>○ボール運動では、主運動につながる補助運動として、一人一人がボールを操作する時間を設ける。また、技能向上につながる練習方法を提示する。</p> <p>△得意な児童の試技を撮影し、ポイントを探したり、伝えたりする。また、自分の技を撮影し、確認することで課題を明確にする。</p> <p>△自ら技能を向上させる方法を考えられるように、グループの組み方や指導方法を工夫する。また、自分の技を撮影し、確認することで課題を明確にすることができるようにする。</p> <p>△体力アップタイムを活用する。また、主運動の時間を十分に設定することで、一人一人の運動量を確保する。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">音 楽</p>	<p>○合奏の表現活動に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>△コロナ禍で活動に制限があった影響もあり、歌唱表現に消極的な児童がみられる。</p> <p>△コロナ禍で活動に制限があった影響もあり、リコーダーに苦手意識をもつ児童がいる。</p>	<p>○目標を設定し、見通しをもって練習する。</p> <p>△児童が心理的負担を感じる事が無いよう、一人一人の声の実態を把握し、一人一人に合った歌い方を見付けられるようにする。</p> <p>△マスクをしたまま演奏できる歌口を活用し、感染予防対策を講じつつ、安心して練習に取り組めるようにする。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">図 工</p>	<p>○全体的に、造形活動に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>○材料や用具について、前の学年までの経験や技能を生かし、表現に適した方法などを組み合わせる力が育まれている。</p> <p>△制作する時間をより多く確保するために、図工室のルールをしっかり定着させて、物や道具の準備や管理等をスムーズに子どもたち自身で進められるようにする。</p> <p>△造形活動では、一人一人が自分の活動に自信をもち、思うままに活動を進めていくことができる力をさらに育てていく。</p>	<p>○児童が興味をもつような題材を吟味し、今まで使ったことのない材料との出会いを大切にする。また、自ら表したくなるようなテーマ設定を工夫し、自己表現することへの充実感や達成感を味わわせる。</p> <p>○様々な材料や道具を自ら選んで使用できる機会を設定する。技能的なポイントを児童が理解しやすいように、ICT機器を使いながら解説し事例を提示する。また個別の支援を充実させる。</p> <p>△どの題材でも、物や道具の準備や管理について、ルーティンを繰り返し、初めて出てくる事柄以外のことは、教師が細かく説明しなくても流れるようにする。</p> <p>△黒板に授業の大まかな流れを書き、児童が確認できるようにする。児童に指示する内容を精選し、説明を短くすることで、児童自らが考える時間を十分にとる。道具や材料を限定しないで、児童が選択できるような機会を設定する。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">家 庭</p>	<p>○友達と協力し合って課題を解決しようとしている。</p> <p>○授業で学習したことを家庭でも実践している様子が見られ、学習内容を深めている児童が多い。</p> <p>△裁縫技能の個人差が大きい。</p>	<p>○児童にとって身近な課題を設定し、友達同士で教え合える場を設定する。教材を工夫し主体的に取り組めるような学習活動を増やす。</p> <p>○実際に家庭で取り組める課題を設定する。</p> <p>△学習ステップを明示し、段階を追って習熟できるようにするとともに、繰り返し学習することで基礎技能を身に付けさせる。また、家庭学習等で実践を繰り返させることにより、技能の習得につながるようにする。</p>